

電気通信大学 平成18年度シラバス

授業科目名	身体文化コミュニケーション論		
英文授業科目名	Communication of Physical Culture		
開講年度	2006年度	開講年次	3年次
開講学期	5学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	専門科目-学科専門科目-選択科目		
開講学科・専攻	人間コミュニケーション学科		
担当教官名	深澤 浩洋		
居室	東1-409		

公開E-Mail	授業関連Webページ
fukasawa@hc.uec.ac.jp	

<p>【主題および達成目標】</p> <p>身体文化は、バーバルコミュニケーションと対を成すノンバーバルコミュニケーションの事例を豊富に提供してくれる。身体文化において成立しうるコミュニケーションとはどのようなものか。人と人とのコミュニケーションに対して身体文化はどのような機能を果たしうるか。身体文化は近代・現代社会に対してどのような意味を持つのか。このような問題に対し、本講義では、身体に対する人間の関わり方を通じて、身体論、文化論、遊戯論、社会理論を軸にアプローチしてゆく。</p> <p>我々の生活や文化の意義を悟り、社会科学的な思考様式に慣れること、そして自己の興味・関心に関連づけて課題や追求する対象を発見できるようになることを目指している。ただしそれは、最低限達成されるべき絶対的な基準という意味での目標ではない。むしろそれは不可能と心得る。なぜなら、何かある基準をクリアすることで某かのものが保障されるわけではなく（手ごたえを感じ取ったり保障したりするのは自分自身）、絶えず前述の目的に向かって超越し続けること、問題を掘り下げ続けること、そうした志向性を持って欲しいと願うからである。</p>

<p>【前もって履修しておくべき科目】</p> <p>特になし</p>
--

<p>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</p> <p>コミュニケーション論</p>

<p>【教科書等】</p> <p>参考書として・・・</p> <p>野村雅一（1983）しぐさの世界 NHKブックス</p>

三浦雅士（1994）身体の零度 講談社

亀山佳明編（1990）スポーツの社会学 世界思想社

多木浩二（1995）スポーツを考える ちくま新書

【授業内容とその進め方】

前半で講義を行い、後半では、授業と平行してプレゼンテーションのための調査を行ってもらおう。自分の関心に基づいて、スポーツや他の身体文化（舞踊、舞台芸術など）に関するテーマを設定し、資料の探索、文献読解などによる考察や調査を進めてもらう。最後にその結果についてプレゼンテーションを行う。

第1回 オリエンテーション

第2回 間身体性

第3回 ボディランゲージ

第4回 身体技法・しぐさ

第5回 身体文化の継承

第6回 身体の近代化

第7回 身体の現代化とテクノロジー

第8回 身体文化と遊び

第9回 身体文化を介したコミュニティ形成

第10回 身体文化とメディア

第11回 スペクテイター・スポーツ

第12-15回 プレゼンテーション

電気通信大学 平成18年度シラバス

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

平常点30%（出席状況及び授業中の発言）、プレゼンテーション20%、レポート50%により総合的に評価する。出席については、4回以上欠席すると評価の対象とはならない。評価対象となる出席数を満たし、私語などでの注意を受けず、プレゼンテーションにおいては、自分の興味関心が聞いている者に伝わり、質問やコメントを引き出せるような発表を行い、他者の発表に対して最低1回は質問・コメントをし、試験においては身体文化に関する自分なりの発見や理解を示すことができること。

【オフィスアワー：授業相談】

特に設けない。質問等は電子メールで受け付ける。

【学生へのメッセージ】

文化やスポーツに関心のある学生の受講を希望します。卒業研究の分野を選ぶ際の参考になるかと思えます。

【その他】